

## 鎖国政策が江戸幕府の存続に与えた影響

### —課題探究型授業の構築—

佐賀県佐賀市立城北中学校 田中 学

#### 1 はじめに

歴史学習の楽しさは、生徒自身が疑問に思うことを探究していくことにある。しかし、私自身の反省でもあるが、さまざまな理由から、教授型の学習が多くなってしまい、生徒の意欲や思考の広がりを妨げていたと思う。

そこで、歴史学習に限らず、社会科の学習を本来の姿である課題探究型にし、生徒の思考力、判断力、表現力に力を入れるようにした。授業づくりを行ううえで、大切にしていることは、次の6点である。

#### 〔授業づくりで大切にしたいこと〕

- ①学習課題を生徒とともに作成すること。
- ②単元の学習時間をおよそ7時間とし、生徒とともに時間の使い方を検討すること。
- ③教科書に限らず、図書館の本やインターネット、専門家への聞き取りなど、調査を広げること。
- ④グループワークやクラス協議を取り入れること。
- ⑤過去の学習内容と関連づけ、復習をかねて学習をすすめること。
- ⑥学習のゴールを明確にすることで、学習の目的を意識させること。

このなかで、とくに生徒が関心を示したのは、上記①、③、⑤の3点であった。

#### (1) 学習課題の設定について

学習課題の設定については、次の3つのパターンを基本としている。

- Aパターン  
〔教科書の記述から課題をつくる〕
- Bパターン  
〔現代社会の問題から学習課題をつくる〕
- Cパターン  
〔教科書や新聞記事、日常で自分が疑問に思っていることで自由に学習課題をつくる〕

とくにAパターンは、社会科学習に対する興味、関心を高めるためにも有効であった。学習課題の事例は以下のとおりである。

#### 〔学習課題づくりAパターンの事例〕

##### 事例1

縄文時代に「抜歯」をするのは、本当に、大人になった儀式のためだけなのか

##### 事例2

卑弥呼は銅鏡100枚を何に使ったのか

#### (2) 学習計画を立てる

学習計画は、生徒の要望も聞きながら作成する。学習計画は、①調査時間、②グループ討議、③学級討議、④調査報告書作成、⑤先生からのアドバイス、⑥レポート作成、⑦発表となる。生徒の要望を聞くのは、例えば、調査時間は何時間設定するのかについてなどで、限られた時間数をもとに設定をする。学習計画のなかで最も難しいのは、調べる視点

を決定することである。それは、小学校時の知識しかないため、しかたのないことである。したがって、教師のアドバイスの時間を発表会終了後に2時間程度もつことで、視野を広げるように指導している。

## 2 言語活動のとらえ方について

言語活動を意識して、授業づくりを行うが、その時に大切にすべきと考えていることは、以下に示す言語活動を構成する①～④の項目である。これら4つの項目を大切にすることで、生徒に身につけさせたい力が明確になり、より効果的である。

項目	言語活動を構成するもの
①思考操作	比較する、分類するなどの思考にかかわる活動。
②言語操作	文章中から関連する語句をキーワードとして抜き出す、目的をもって調べるなどの活動。
③言語運用	社会的事象を説明する、まとめる、論題について話し合うなどの活動。
④交流	

参考文献 佐賀県吉野ヶ里町立三田川中学校 研究発表全体資料より

## 3 授業実践例

本稿では、『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）p.98～103を用いて江戸時代における貿易政策について取り上げた。江戸時代の単元における本授業の位置づけとしては、まず江戸時代が鎌倉、室町、安土桃山時代と比較して約260年間も続く長期政権であったことに注目する。これほどの長期政権を継続させることができた一つの要因として貿易政策をとらえることを試みた。具体的には次のような学習課題を設定した。

### (1) 学習課題の設定

**学習課題：鎖国政策は江戸時代の存続にどのような影響を与えたのだろうか。**

学習課題の設定では、「レポートを作成する」など学習のゴールを明確にする。レポートの場合は、その字数も設定し、見通しがもてるようにする。

次に、生徒に仮説を立てさせた。

仮説を立てることで、生徒同士で既得の知識を出し合い、レディネスを高めることになる。小学校の頃の知識が定着していない生徒も、同じレベルで学習をスタートすることができ、結果的に学習意欲を高めることができるためとても有効である。

さて、仮説を立てたら学習課題にもとづき、調査活動を行った。

### (2) 調査活動と調査結果の説明

#### 〔調査結果の書き方 例〕

①調査の目的や内容について記述する。

「〇〇について調査した。」

「目的は、〇〇のためである。」

②調査した文献を2つから3つ提示し、引用する。

「〇〇（書籍名）には、〇〇との記述があった。また、〇〇（書籍名）には、〇〇〇とあった。」

③結論を記述する。

「以上の点から考察して、〇〇と考えられる。したがって、〇〇である。」

調査結果の説明文は必ず、2つ以上の資料をもとに作成させる。

調査活動では、教科書を含んで2つ以上の文献をもとに考察させたい。メディアリテラシーの観点からも1つの資料で論じることは、

好ましくないと考えているからである。生徒たちには、調査活動の種類として、文献調査(複数冊)、専門家へのインタビュー調査、アンケート調査などを示し、一面的な考察にならないように指導している。具体的には、次のように、教科書、「資料A」、「資料B」によって考察させた。以下は、「鎖国政策の有効性について」の調査の例である。鎖国政策の発端ともなった「貿易統制」の目的について文献調査した。

〔貿易統制の目的に関する教科書の記述〕

また家康は南蛮貿易をさらに進め、利益を独占するために貿易を統制下におくことを考えました。……家康は、キリスト教の日本への影響よりも、貿易の利益を優先していました。しかし、キリシタンの急増が、スペインやポルトガルによる日本の侵略のきっかけになると考え、1612年に幕領で、翌年には全国でキリスト教を禁止し(禁教)、宣教師を国外へ追放したり、キリシタンを迫害したりしました。さらに徳川家光は、禁教と貿易統制を徹底する方針をとりました。

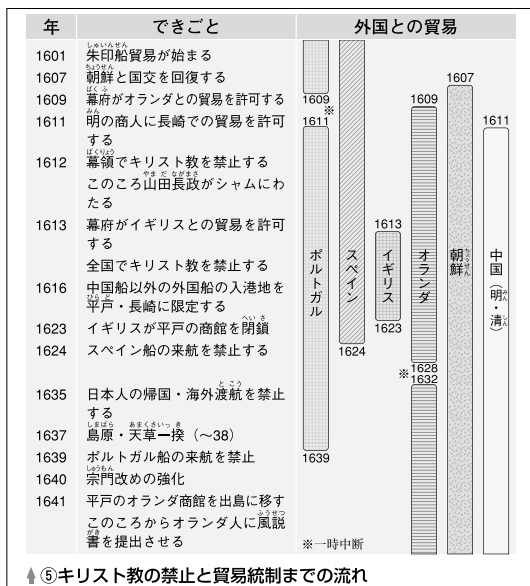


図 『社会科 中学生の歴史』 p.99

資料A

幕府は、キリスト教の布教はポルトガルとイスパニアの植民地獲得的手段ではないかと警戒しました。1612年に幕府直轄領にキリスト教禁止令を発し、翌年にはそれを全国に広げます。(中略)幕府がこのように規制した主な理由は2つあります。1つ目は貿易対策、つまり貿易の利益を独占しようとしたことです。そのために、1633年には、奉書船以外の海外渡航が禁止されました。

出典〔NHK高校講座日本史ホームページより〕

資料B

信者が強く団結することをおそれ、1612年と1613年に禁教令を出しました。一方、幕府は貿易の利益を独占するため、貿易の統制を強化しました。

出典〔小学館『日本の歴史』より〕

〔調査結果のレポート文 例〕

貿易統制の目的について調査した。教科書には、理由は2つあるとあった。1つは、キリシタンの急増からスペイン・ポルトガルによる日本侵略を懸念し、防ごうとしたこと、もう1つは、貿易による利益を独占するためとある。資料A「NHK 高校講座日本史ホームページ」には、貿易統制は、幕府が貿易による利益を独占しようとしたこととキリスト教の布教がポルトガルとイスパニアの植民地獲得的手段ではないかと警戒したとある。資料B『日本の歴史』には、「信者が強く団結することをおそれ、1612年と1613年に禁教令を出しました。一方、幕府は貿易の利益を独占するため、貿易の統制を強化しました」とある。以上の点から、貿易統制の理由は2つ

あり、1つは、ポルトガルやイスパニアからの侵略に対する備えのため、もう1つは貿易による利益を独占するためと考えられる。したがって、他国からの侵略を事前に防いだこと、貿易の利益を独占したことから、貿易の統制は、江戸幕府の長期政権を支えることにつながったといえる。

生徒は教科書を含んだ3つの資料から江戸時代の長期政権と鎖国をつなげて考えることができた。このように調べた内容に応じてレポートを作成することは、前述した言語活動のうち、②言語操作、③言語運用に強くかかわるものである。学習計画のなかでできるだけ多く組みこみ、くり返し訓練させたい。

### (3) 鎖国時の外交関係と現在の関係の比較

生徒たちは、「長期政権に鎖国がいかにか有効だったか」については調査したが、当時の外交関係についてまで調査の触手は及ばなかった。そこで、教師のアドバイスとして、当時の外交関係についての授業を行った。そもそも外交史は、過去から現在までの時間軸で学習したい。中国や韓国などの諸外国との関係はとても古く、深いものである。しかし、現在は、領土問題等をめぐり、政治的にすれ違っている状態である。この学習では、教科書をもとに、復習を兼ねて、過去から振り返り、現在の関係を生徒とともに情報交換する。生徒たちは、渡来人や仏教の伝来、元寇、日清戦争、植民地政策、日中戦争、現在の領土問題など、教科書をもとに情報を交換するのだ。また、『中学校社会科地図』p.29～30には、東アジアと日本の交易、日本と韓国などの文化とを比較し、「すもう」など、「共通点」に関する情報もある。

また、中国や韓国から見た視点での地図が掲載されており、地理的観点からも関係の深さがわかる。そのなかでも、教科書には、江戸時代の人々が朝鮮通信使をととても楽しみにし、その行列を当時の人々がまねていたことや、学問の発展にも寄与していたこと、今もなお各地のお祭りとして文化が残っていることが伝えられている。

教科書や地図帳、資料集などからもわかるように、現在においても、諸外国の影響を大きく受けた文化が、日本には数多く存在する。とくに、佐賀県は、長崎県から続く長崎街道を別名「シュガーロード」と呼んでおり、オランダとの貿易品である白砂糖を用いた「丸ポーロ」など、ヨーロッパ由来のお菓子がある。また、佐賀県の唐津市巖木町には、韓国の町の名前に由来する地区名が残っているなど、文化の交流は今にも伝わっている。

このような学習は、生徒の探究心を育てるとともに、空間的、時間的な思考で歴史をとらえることとなり、3年生から学習する公民的分野において、国際協調を話し合ううえで求められる思考力であると考えている。

## 4 おわりに

生徒たちに、教室という狭い学習環境から飛び出して、学習をさせたい。教科書以外の書物やインターネットの資料のほか、地図帳により空間的な思考力を培うことなど、方法は多様である。社会科の目標は、公民的な資質を育成することでもある。そのためには、生徒の主体性を育成することがその根幹であると考えている。生徒の出番の多い、社会科学学習を構築したいと考えている。